

I 生徒の課題

	学力状況について	学習状況について
生徒の課題	平成27年度実施の全国学力・学習状況調査の結果から、正答率の全国比が、国語B、数学Aについてはおよそ3%、数学Bについてはおよそ8%下回っている。国語も数学も、知識に比べて活用問題の苦手としている。また、新3年生については大分県学力定着状況調査では国語について偏差値が県の結果を0.6下回っていたものの、日田市実施学力調査(1月実施)では全国比141.6と大きく上回り、学力の向上が見られた。新2年は、日田市実施学力調査(1月実施)ですべての教科について全国を上回った。とくに社会以外の4教科では全国比が120以上であり、学力の定着がうかがえる。	全国や県と比較して、感想文や説明文を書くことを難しいと感じている生徒や、自分の考えや意見を発表することはあまり得意ではないと回答した生徒がやや多い。また、授業の中でわからないことをそのままにしておくや回答した生徒もやや多い。その他の質問項目からも、自分に自信がなく受け身の学習の様子が見える。

II 授業改善の取組(「授業改善の5点セット」目標達成に向けた組織的な授業改善)

①授業改善テーマ	自分の考えを説明する力を育む授業の工夫・改善
----------	------------------------

②授業改善の重点	自分の考えを小集団や全体で説明しあう授業づくり
----------	-------------------------

	③取組内容	④取組指標	⑤検証指標	検証(成果・課題)
1学期	○生徒が自分で考え説明しあう小集団活動の場、授業でわからないことや疑問に思ったことを出し合う場面を設定する。	○小集団による話し合い活動を実施する場合は、話し合い活動が活発になるように1人で考えをまとめて書く時間を5分以上設定する。	○学期末の生徒意識調査において、肯定的な回答をする生徒の割合を60%以上とする。 ・「小集団活動では、自分の考えを話し合いの場でしっかり言える。」 ・「授業では、分からないことや疑問に思ったことを出し合うことができる。」	○学期末のアンケートでは、「授業では、自分の意見や考えを班の中で発言することができましたか。」の項目で、肯定的な回答が83% ・「授業では、分からないことや疑問に思ったことを出し合うことができましたか。」の項目で、肯定的な回答が76%

	③取組内容	④取組指標	⑤検証指標	検証(成果・課題)
2学期	○生徒が自分で考え説明しあう小集団活動の場、授業でわからないことや疑問に思ったことを出し合う場面を設定する。 ○説明の場面では、既習の用語を意識的に使わせる。	○小集団による話し合い活動を実施する場合は、話し合い活動が活発になるように1人で考えをまとめて書く時間を5分以上設定する。 ○定期テストでは、毎回、1問以上の記述問題を出題する。	○学期末の生徒意識調査において、肯定的な回答をする生徒の割合を全学年75%以上とする。 ・「授業では、自分の意見や考えを班の中で発言することができたか。」 ・「授業では、分からないことや疑問に思ったことを出し合うことができたか。」 ○定期テストでの記述問題の無回答率13%以下	○学期末アンケートでは、「授業では、自分の意見や考えを班の中で発言することができたか。」の項目で、肯定的な回答が84% ・「授業では、分からないことや疑問に思ったことを出し合うことができたか。」の項目で、肯定的な回答が77% ○定期テストでの記述問題の無回答率 中間テスト8.2% 期末テスト5.6%

	③取組内容	④取組指標	⑤検証指標	検証(成果・課題)
3学期	○生徒が自分で考え説明しあう小集団活動の場、授業でわからないことや疑問に思ったことを出し合う場面を設定する。 ○説明の場面では、既習の用語を意識的に使わせる。	○小集団による話し合い活動を実施する際に、話し合い活動が活発になるように1人で考えをまとめて書く時間を3分以上設定する。また、他の人の考えに対し反応を返す場を設定する。 ○定期テストでは、毎回、1問以上の記述問題を出題する。	○学期末の生徒意識調査において、肯定的な回答をする生徒の割合を全学年 ・「授業では、自分の意見や考えを班の中で発言することができたか。」80%以上 ・「授業では、分からないことや疑問に思ったことを出し合うことができたか。」75%以上 ○定期テストでの記述問題の無回答率10%以下	

III 補充学習の取組(目標達成に向けた組織的な学習指導)

	重点的取組	取組指標	評価
1学期	わかる授業につながる学力層に応じたきめ細かい補習、振り返り学習に取り組む。	朝・放課後学習を毎日計25分間設定、確認テストを学期に2回以上実施する。全教職員で取り組み、毎月内容の見直しを図る。	△
2学期	わかる授業につながる学力層に応じたきめ細かい補習、振り返り学習に取り組む。	ドリル的な内容と教え合い学習的な内容を組み合わせた朝・放課後学習を毎日計25分間設定する。学力下位層の取組状況を毎月分析し、見直しを図る。	○
3学期	わかる授業につながる学力層に応じたきめ細かい補習、振り返り学習に取り組む。	ドリル的な内容と教え合い学習的な内容を組み合わせた朝・放課後学習を引き続き、毎日計25分間設定する。また、学力下位層の取組状況の、毎月の分析と見直しを継続する。	

IV 家庭学習の取組(目標達成に向けた組織的な学習指導)

	重点的取組	取組指標	評価
1学期	学校と家庭で、夜9時以降は家庭学習に集中する環境づくりに取り組む。	家庭学習に集中するためのルールづくりを学級単位で行い、状況調査・家庭への協力依頼を毎月行う。	△
2学期	学校と家庭で、夜9時以降は家庭学習に集中する環境づくりに取り組む。	家庭学習に集中するためのルールづくりを学級単位で再確認し、状況調査・家庭への協力依頼を毎月行う。	○
3学期	学校と家庭で、夜9時以降は家庭学習に集中する環境づくりに取り組む。	家庭学習に集中するためのルールづくりを学級単位で再確認し、状況調査・家庭への協力依頼を引き続き毎月行う。	

V 家庭・地域との協働の取組

	重点的取組	取組指標	評価
家庭との協働	学級担任と連携して家庭学習習慣(夜9時以降は机に向かう)の確立に取り組む。	子供の家庭学習の状況を見守るとともに、毎月発行される学級通信(机に向かう学習習慣づくりの欄)を活用しながら、学習意欲をはぐくむ声かけを行う。(月1回以上)	1学期 △ 2学期 ○
地域との協働	生徒の学習状況を参観するために、行事公開日以外にも学校に出向く機会をつくる。	学校公開日を中心に一般授業を参観し、意見・感想をアンケート等で学校に伝える。	3学期 ○

※Ⅲ・Ⅳ・Ⅴの重点的取組を取組指標で検証し、その達成度により次のように評価を行う。

◎=100%以上、○=80~99%、△=60~79%、×=60%未満

VI 平成28年度の目標及び達成指標・取組指標

- 大分県学力定着状況調査、全国学力・学習状況調査の平均正答率(県比・全国比)
- 全国学力・学習状況調査(質問紙:肯定的回答の割合)

	目標値	結果
中3 国語A 全国比	104.0	97.2
中3 数学A 全国比	98.0	103.4
中3 国語B 全国比	98.0	102.0
中3 数学B 全国比	83.0	101.4
中2 英語 偏差値	54.0	52.9

質問事項	目標値	結果
①教科の授業が好き	国語	70%
	数学	40%
②教科の授業が分かる	国語	85%
	数学	65%
③話し合う活動で自分の考えを深め広げる	70%	55%
④授業で分からないことをそのままにしておかない	90%	80%

3 取組指標

①「新大分スタンダード」に基づいた「授業観察シート」を活用し、11月までに2回以上授業を観察する。	
自校で授業観察シートで11月までに2回以上授業を観察した教員の割合	100%

③学力向上支援教員・習熟度別指導推進教員の公開授業や学びに向かう学校づくり中核校の公開授業に、自校の教員が、2月までに1回以上参加する。	
公開授業に1回以上参加した教員の割合	%

②全国学力・学習状況調査の調査問題(B問題)を解いて、改善策を見出す研修を、全小中学校が10月まで実施する。	
自校で研修を実施した(実施・未実施)	未実施

④「新大分スタンダード」と自校の【③取組内容】に基づいた公開授業を、自校の全教員が11月までに実践する。	
授業を公開した教員の割合	100%